

認定NPO法人
市民セクターよこはま

■ 事業報告 2017 ■

2017年度（2017年4月～2018年3月）



～誰もが自分らしく暮らせるまち～

一人ひとりの市民が主人公として、
幸せと豊かさを実感できる市民社会の実現を目指して...

2017 年度事業報告書 目次

◆ 2017 年度を振り返って.....	P 4
----------------------	-----

◆ 運営に関する事項（法人総務）

（1）会員〔会員数・会員総会〕	P 6
-----------------------	-----

（2）理事会〔開催日・議題〕	P 6
----------------------	-----

（3）各団体・行政機関等の委員の受任	P 6
--------------------------	-----

（4）他団体の会員として	P 8
--------------------	-----

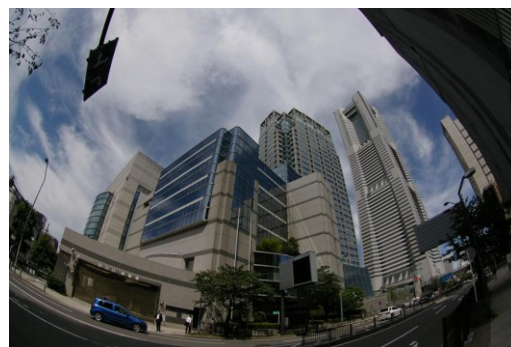
.....

◆ 事業に関する事項

◇ 市民活動支援事業

横浜市市民活動支援センター運営事業	P 9
-------------------------	-----

※別紙「事業報告 2017」参照



にしく市民活動支援センター運営事業	P 9
-------------------------	-----

※別紙「事業報告 2017」参照



NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ in 横浜	P 10
--	------

◇ 地域活動支援事業

- よこはま食事サービス連絡会 P 11
- 認知症ケア関連事業
 - ・ 認知症サポーターキャラバン P 13
 - ・ 認知症カフェ事業 P 13
 - ・ 認知症ケア実務者向け研修 P 16
- よこはま地域づくり大学校
 - ・ 第 6 期 泉区まちづくりみらい塾 P 17
 - ・ 第 6 期 西区地域づくり大学校 P 17
 - ・ 第 3 期 神奈川区地域づくり大学校 P 17
- 第 3 期 都筑区シニア★スター養成講座 P 17
- ヨコハマ市民まち普請事業 P 18
- NPO 法人横浜市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の事業事務局代行 P 20

◇ 市民の目を活かした評価事業

- ・ 福祉サービス第三者評価 P 21
- ・ 障がい者保養施設宿泊モニタリング P 22

◇ クロスセクター事業

- ・ 地域づくり大学校本校の企画検討会 P 23
- ・ スタディツアー（NPO・企業編） P 24

・ ・ ・ ・ ・

◆ 資料編

- (1) 会員数の推移 P 26
- (2) 収入額の推移と内訳 P 26
- (3) 市民セクターよこはま沿革 P 27
- (4) 2017 年度の役員・事務局スタッフ P 28

2017 年度を振り返って

理事長 中野 しずよ

中期ビジョン実現に向けた初年度は、「非営利・企業・行政の各セクターが、垣根を越えて課題解決に向けて協力し合うことに挑戦する体制」を整える年となりました。

1. 人・資金・知恵が集まる「プラットフォームづくり」という視点を持って、体制づくりの第一段階を進めました。

これからの当法人のあり方として、さまざまな課題解決に向けたプロジェクトが持ち込まれ、自由闊達な議論が生まれ、プランが揉まれる環境をつくることを目指しています。そこで 2017 年度は、中間支援機能をもつ 10 団体が連携した相談事業の体制づくりに力をいれ、2018 年度につなげました。

2. 「楽しくやりがいのあるチームづくり」という視点を持って若手職員の可能性を拡げ、プロジェクトリーダーとしての資質の開花に努めました。

中間支援組織の職員として、今年 3 年～9 年のキャリアを重ねた若手職員が、今後課題解決につながる多様な主体が連携したプロジェクトのとりまとめ役が担えるよう、司会、講義、ワークショップのデザイン、合意形成の調整役などの経験を積みました。

3. 新市庁舎「市民協働・共創スペース」運営への参画を目指し、準備を進めました。

2020 年開設予定の新市庁舎内「市民協働・共創スペース」は当法人が目指す協働型で課題解決を行う機能がその一部に想定され、横浜市市民活動支援センター機能の一部も引き継がれます。

具体的には、運営イメージについて、市民局からの正式なヒアリングがありましたので、2020 年以降を想定し、これまで準備を進めてきた内容や空間の使い方について提案を行いました。

また今後連携をさらに深めていきたい団体との接点を多くし、お互いの考えを知る機会を意識してつくりました。

4. 活動の当事者が相互に学び合い・支え合う環境づくりを行いました。

認知症ケア関連事業、地域づくり大学校事業、シニア☆スター養成講座において、活動の実践者が主体になって、講座終了後もその力を存分に活かし活躍できるよう、地域ケアプラザ・各区の支援センター・区役所等が継続的にフォローする体制を目指し、さまざまな働きかけを行いました。

また当法人設立とほぼ同時に始まりました食事サービス連絡会について、役員の方々と話し合い、法人事業として、「人々が集い、互いに力を発揮できる場」の情報交換や学び合いの場としての再出発することとしました。2018 年度新規事業として、本格的に立ち上げをしていきたいと考えています。

5. ま と め

NPO法制定の翌年、介護保険開始の前年、在宅福祉活動を担う「助け合い」や「まちづくり」を理念とする団体が集まって学び合い、ネットワーク組織をつくりました。「誰もが人生の主人公として生きることができる社会」を目指し、少しずつ力を蓄えてきました。

一方、活動相談などを受ける中で、現実の状況を知ると、「道は遥か遠い」と感じる日々でもあります。しかし同時に多くの活動団体・組織の積み重ねを知り、幅広い団体と力を合わせていく信頼関係のベースもできつつあり、コーディネート幅も広がってきました。

さまざまな出来事や人に向き合い揉まれる中で、まだまだ力不足もありますが、若い職員が育ち、当法人のスピリットが次の世代へ引き継がれつつあることも大きな希望と感じています。

運営に関する事項（法人総務）

(1) 会員

● 会員数

2017 年 3 月 31 日時点：134

【正会員 122】団体 48/個人 78、【準会員 6】団体 3/個人 3、【賛助会員 6】団体 2/個人 4

↓

2018 年 3 月 31 日時点：137

【正会員 123】団体 41/個人 82、【準会員 8】団体 3/個人 5、【賛助会員 6】団体 2/個人 4

● 社員総会（会員総会）

日 時：2017 年 5 月 24 日（水）17:30～19:15

会 場：横浜市市民活動支援センター 4 階 ワークショップ広場

参加者：正会員：62 名（うち書面表決 13 名、委任状 26 名 ※正会員数 118 名）

第 15 回 通常総会

※各担当者による事業説明会を実施。

(2) 理事会

● 開催日

2017 年 ： 4 月 19 日、6 月 26 日、7 月 26 日、8 月 30 日、9 月 27 日、10 月 25 日
 11 月 29 日

2018 年 ： 1 月 31 日、2 月 28 日、3 月 28 日

● 議 題： 総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、横浜市支援センター事業
 にしく支援センター事業、次年度組織体制、役員人事、職員の採用・給与・賞与、等

(3) 各団体・行政機関等の委員の受任

行政や社会へ提言、市民参画の拡大のため、さまざまな団体等の委員を引き受けています。

〔表彰〕

- ・ 市長表彰（社会福祉・保健医療の増進に協力援助された功績顕著な方への感謝状）（中野）

〔横浜市・健康福祉局〕

- ・ 横浜市社会福祉審議会 委員（中野）
- ・ 横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員（中野）
- ・ 横浜市福祉有償移動サービス運営協議会 委員（中野）
- ・ 横浜市福祉サービス第三者評価推進委員会 委員（吉原）
- ・ 横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員（竹谷）

〔横浜市・政策局〕

- ・ 横浜市男女共同参画審議会 委員（齋藤）

〔横浜市・こども青少年局〕

- ・ 横浜市親と子のつどいの広場事業選定委員会 委員（中野）

〔横浜市・温暖化対策統括本部〕

- ・ 横浜市環境未来都市計画懇談会 委員（中野）

〔横浜市・各区役所〕

- ・ 瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会委員（中野）

〔横浜市社会福祉協議会〕

- ・ 横浜市社会福祉協議会企画委員（中野）
- ・ 横浜市社会福祉協議会よこはまふれあい助成金運営委員会 委員（吉原）
- ・ 横浜市社会福祉協議会「福祉よこはま」編集委員（山野上）
- ・ 横浜市社会福祉協議会福祉ボランティア・市民活動部会 委員（山田）

〔その他〕

- ・ 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 理事（中野）
- ・ 男女共同参画公募事業 選定委員会 委員（中野）
- ・ NPO 法人横浜移動サービス協議会 評議員（中野）
- ・ 横浜市芸術文化振興財団ヨコハマアートサイト選考委員（松本）
- ・ かながわ協働推進協議会および、条例検討部会委員（吉原）
- ・ 横浜市こども青少年局ユースプラザ選定委員（吉原）
- ・ 男女共同参画センター横浜市民運営協議会 委嘱委員（井上）
- ・ 瀬谷区地域福祉保健計画懇談会委員（中野）
- ・ 瀬谷区社会福祉協議会 企画委員（中野）

〔講師等の受任〕

- ・ 移動サービス運転ドライバー安全運転講習（中野）
- ・ 西区サブコーディネーター研修会（中野）
- ・ 泉区社会福祉協議会 地区社協ミニ研修（中野）
- ・ 平成 29 年度港北区認知症キャラバン・メイトのつどいの講師（計 3 回）（井上）
- ・ NPO 法人会計税務専門家ネットワーク主催 税理士向け講座 講師（吉原）
- ・ 区支援センター新任者研修（4 月）・フォローアップ研修（2 月）講師（吉原）
- ・ 瀬谷区 NPO 入門講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 磯子区 NPO 入門講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 市民局地域活動推進課主催「協働研修基礎編」講師 3 回（吉原）
- ・ 日本 NPO センター行政との対話フォーラム分科会 講師（吉原）
- ・ 港北区区民施設交流会 講師・ファシリテーター（吉原）

- ・ 栄区施設連携会議&職員向け講座（12月） 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 神奈川区施設連携会議 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 西区施設間連携会議 講師・ファシリテーター2回（吉原）
- ・ 南区主催 施設間連携事業「まるごとみなみ」全体会講師・ファシリテーター2回（吉原）
- ・ 西区地域づくり大学校 6回連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 神奈川区地域づくり大学校 6回連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 都筑区主催シニア☆スター養成 6回連続講座&フォローアップ 2回講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 泉区まちづくりみらい塾 6回連続講座 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ こども青少年局ユースプラザ施設長向け 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ 行政への提案カススキルアップ道場 5回連続講座&説明会 講師・ファシリテーター（吉原）
- ・ つながりのまちづくりフォーラムディスカッションコーディネーター（吉原）
- ・ 横浜市危機管理センター主催 地域活動をすすめるための講座 2回（吉原）
- ・ みやぎ連携復興センター自治会長向け講座・ファシリテーター 2回（吉原）
- ・ 関東学院大学 松村氏授業にてNPOについての講座 講師（吉原）

(4)他団体の会員として

下記の団体に会員として参画しています。

- ・ 認定NPO法人 日本NPOセンター
- ・ NPO法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
- ・ 日本ファンドレイジング協会
- ・ 認定NPO法人 市民福祉団体全国協議会
- ・ 全国老人給食協力会
- ・ 公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会
- ・ 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
- ・ NPO法人税理士による公益活動サポートセンター
- ・ 神奈川県居住支援協議会
- ・ 一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク

事業に関する事項

【 NPO 法人・市民活動支援事業 】

■ 横浜市市民活動支援センター運営事業

（横浜市市民局市民活動支援課との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度横浜市市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。

■ にしく市民活動支援センター（にしとも広場）運営事業

（横浜市西区役所との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度にしく市民活動支援センター事業報告書」をご覧ください。



■ NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ in 横浜

(共催：パナソニック株式会社・認定 NPO 法人日本 NPO センター)

成果と課題

認定 NPO 法人 NPO センター（以下、NPO センター）とパナソニック株式会社（以下、パナソニック）が、各地の中間支援組織との協働で実施している「NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ」について、2017 年度は全国 6 か所で開催され、横浜開催を、当法人含む三者協働で取り組みました。

● 成果（経緯）

既に活動を継続し実績を重ねている層の団体や、環境・国際等の分野の団体の参加があり、市の支援センターを通じた講座等とは異なる団体の方たちと、「組織基盤強化」の重要性について共有することができました。組織の基盤強化については、センター事業を通じても力を入れて取り組んできましたが、NPO 支援において実績のある NPO センター、ファンド等を通じて組織基盤強化の面から NPO 支援を行ってきたパナソニックと共催することにより、さらに新たな層に対してもアプローチすることができました。

● 課題

市支援センターでは、基盤強化をねらいとする講座等の支援について、立ち上げ初期の団体を主な対象にして行っています。さらに異なる層の方たちと、組織の基盤強化に向けて学び合い高め合っていく機会を、他の支援機関と協働しながら法人事業として実施していくことが今後の検討課題です。

事業の概要と実施したこと

日 時：2017 年 6 月 2 日(金) 13：30～17：30

会 場：横浜市民活動支援センター セミナールーム 1・2

参加者：35 名（申込 46 名）

プログラム

13：30～ 趣旨説明

13：40～ 講座「組織基盤強化とは」

（講師 日本 NPO センター 今田 克司）

14：20～ 組織基盤の強化により発展につながった事例報告

- ・特定非営利活動法人こまちぶらす（発表：副代表 北本若葉さん）
- ・認定 NPO 法人エンパワメントかながわ（発表：池畑 博美 さん）

15：00～ ワークの説明 / 休憩

15：15～ 組織課題について考えるワークショップ(個人ワーク、グループワーク、共有)

進行：認定 NPO 法人市民セクターよこはま

17：00～ Panasonic NPO サポート ファンド紹介

17：30 まとめ・終了

【地域コミュニティの活動支援事業】

■ よこはま食事サービス連絡会 ※神奈川県共同募金 歳末たすけあい配分金

成果と課題

● 成果（経緯）

市内の食事サービスグループ同士の連携や情報共有、学びあいの場としての活動を行いました。

2000年に始まった連絡会は、開始以来ほぼ月1回の開催を続けています。

毎年2回開催している「食事サービスを考えるつどい」においては、1回目に昨年度から関心の高い薬膳について、調理実習をしながら学び合いました。2回目は、これからの地域づくりに欠かせない、みんなが気軽に集える場「コミュニティカフェ」について学び合いました。

いずれも交流の時間を持ち、食事サービス団体同士が情報交換や意見交換を行い、活動を長く続けるためのモチベーションを維持する場となっています。

さらに、2012年度から地域で「食」を通してまちづくり等を行っている現場を訪問し、主催者の話を聞き、課題や問題点を共有する新しい試みを始めました。2017年度は、金沢区の「もりのお茶の間」「釜利谷ふれあいカフェ」を訪問し、代表者から活動の成り立ちや、事業内容、組織体制、そしてこれからの向けての展望までお話を伺いました。

いずれも地域の中の居場所として開いているカフェはとても大きな意味を持ち、食を通じた交流の場として活用されていました。地域の課題解決や今後の活動を継続・発展させていくためのヒントがたくさんありました。

また、食事サービス活動も高齢者だけを対象にするものから、地域の子どもや障害者、外国につながる人など孤立しがちな方々を対象にした「食」を通じた地域の居場所づくりへと広がりを見せています。そのため連絡会として多くのセミナーや研修会に参加し、メンバーの皆様にその情報を届けることができました。

● 課題

多くの食事サービス団体の若い担い手の不足=高齢化が問題となっています。これからますます必要となる地域での高齢者への見守りとしての配食サービスや会食、サロン・カフェといった居場所に「食」をキーワードに関わっていくことが、担い手自身の介護予防や生きがいとなることを広く知っていただき、活動を元気にしていくために連絡会として何ができるかを考えていく必要があります。

事業の概要と実施したこと

市内の食事サービスグループ同士の連携や情報共有、学びあいの場としての活動を行いました。

1) 定例会：年間10回実施

2) 食事サービスを考えるつどい：2回実施

○ 薬膳講座「季節の食材を食べて元気になろう！」

講師：料理研究家・国際薬膳食育学会認定 和漢膳プロフェッサー・野菜ソムリエ プロ
山口直美氏

(2017年11月27日 於：JA クッキングサロン ハマッ子 / 参加者：30名)

○ 「食」を通じてつながる地域づくり

講師：子どもの未来サポートオフィス 代表 米田佐知子氏

(2018年3月3日 於：シェアリーカフェ / 参加者：20名)

3) 現場訪問：2018年1月26日 / 参加者：5名

○ 金沢区「もりのお茶の間」「釜利谷ふれあいカフェ」



▲ 食事サービスを考えるつどいの様子



▲ 現場訪問のようす

■ 認知症ケア関連事業

「認知症になっても住み慣れたまちで本人も家族も安心して暮らせるようなまちづくり」をめざして、ご本人と家族を温かく見守ることができるよう、認知症を正しく理解する場をつくるとともに、地域における居場所としての認知症カフェの取組みの推進に取り組みました。

成果と課題

【1】認知症サポーターキャラバン（横浜市健康福祉局との協働事業）

● 成果

- ・ 認知症サポーター養成講座をよりよくするための「認知症サポーター応援プロジェクト」として、2回の検討会を行いました。
- ・ 認知症キャラバン・メイト養成研修を4回実施し、244名の新しい認知症キャラバン・メイトを養成しました。
- ・ 本年度、市内で実施された認知症サポーター養成講座は、968回、合計43,346名の認知症サポーターが養成されました。
- ・ 昨年度に引き続き、「認知症キャラバン・メイト交流会」を実施しました。

● 課題

- ・ より一層、認知症サポーターキャラバン事業を発展させるために、実際に活動できる認知症キャラバン・メイトを増やす必要があります。認知症キャラバン・メイト養成研修の開催方法の工夫や、認知症キャラバン・メイトが研修を受けた直後に、地域の支援者や先輩メイトとつながるきっかけづくりを検討します。

【2】認知症カフェ事業

● 成果

2016年度の認知症カフェフォーラムに引き続き、認知症カフェ実践者が集い、学び合う場として情報交換会、認知症カフェ設立講座、フォーラムを実施しました。取り組みが徐々に広がるなか、互いの活動について知り合い、自らの場を振り返る機会となりました。また、これからカフェに取り組みたいと考えている方のきっかけの場となりました。

● 課題

「歩いて行ける範囲に認知症カフェがある」ためには、その取り組みが広がるとともに、場が継続していくことが大切です。ゆるやかにカフェ同士が繋がり合い、認知症の当事者本人が輝ける場について考え合う場づくりに引き続き取り組むことが課題です。

【3】認知症介護実務者向け研修

介護の専門職を対象とした本研修は、入職後、日が浅い方を主な対象とした連続講座としました。今回は、研修初日の基調講演に、長谷川診療所院長で精神科医の長谷川洋氏をお招きしました。「認知症の方本人に寄り添うケア」～認知症高齢者の医学的理解～では、長谷川式スケール、認知症の原因疾患、薬物治療についてなど医学的な考え方や、パーソンセンタードケアの必要性、BPSD 症状への適切な対応などを大変わかりやすく講義いただきました。初日に講演でしっかりと基本を理解した後、現場で活躍している講師陣による講義やグループワークで学んだ3日間は、施設での毎日のケアに直結するものとなりました。本人本位の視点をきちんと理解し、介護実務者としての軸に気づききっかけとして、今年度も、大変有効な研修になったと思われます。

また、本研修終了後のアンケートでは、講座内容について「大変よかった」「よかった」との評価が94%あり、満足度の高い研修となりました。全体を通して「認知症本人の方に寄り添うケア」についての基礎を理解する研修となりましたが、フォローアップ研修やステップアップ研修を望む声もあり、今後は、受講者に対する継続的なフォロー方法を検討する必要があります。



事業の概要と実施したこと

【1】認知症サポーターキャラバン

横浜市との協働事業として、認知症サポーターキャラバンの横浜市の事務局を担っています。日常的には、認知症キャラバン・メイトが認知症サポーター養成講座を実施するにあたってのサポートと計画書と報告書のとりまとめを行い、4回認知症キャラバン・メイト養成研修を実施しました。また、各区から認知症キャラバン・メイトと区役所担当職員と地域ケアプラザまたは区社会福祉協議会職員の3名が一緒に参加していただく「認知症キャラバン・メイト交流会」を実施しました。

※詳細は、別添の報告書をご覧ください。

【2】認知症カフェ事業

1) 横浜市内認知症カフェ情報交換会の実施

【日時】2017年6月29日（木）18:00～20:50

【会場】横浜市民活動支援センター 4階ワークショップ広場

【参加者数】39名

【内容】活動実践報告（6カフェ）、グループワーク、ワーキングの提案

2)「認知症カフェ設立講座～語り合い、立場を超えて一緒に過ごせるカフェづくり～」の実施

認知症カフェの設立に焦点をあて、認知症介護研究・研修仙台センターの矢吹知之先生を講師に、講座を実施しました。

【日時】2018年1月12日（金）10:00～16:15

【会場】横浜市市民活動支援センター 4階ワークショップ広場

【参加者数】59名

【プログラム】

○講義1『認知症と認知症カフェの理解』

○講義2『認知症カフェ運営・開設のコツ』

矢吹 知之 氏（認知症介護研究・研修仙台センター・東北福祉大学）

○グループワーク1『認知症カフェの軸を考える』



○グループワーク2『認知症カフェ設立のための実行プランシート』

吉原 明香 （認定 NPO 法人市民セクターよこはま）

○情報提供 助成金、横浜市の助成制度の紹介



3)「認知症カフェフォーラムもっともっとⅢ～私の大切な場所で、“なじみの関係”を続けよう～」の実施

誰もにとってなじみのある自分の大切な場所を、認知症になっても続けていくことをテーマに、フォーラムを実施しました。

【日時】2018年3月16日（金）17:30～20:30

【会場】横浜情報文化センターホール

【参加者数】127名（登壇者・運営スタッフ含む）

【プログラム】

講演 『フォローし合い支え合って、“なじみの関係”を続けよう』

井上 義臣氏（医療法人活人会 高齢者グループホーム横浜ゆうゆう 管理者
認定 NPO 法人市民セクターよこはま 理事）

実践報告1 『ご近所さん会』加世田 恵美子 氏 （認定 NPO 法人市民セクターよこはま 理事）

実践報告2 『ころぼっくる&茶卓の取り組み』

山尾 宏子 氏 （NPO 法人有為グループ 顧問、NPO 法人歩々路 理事業）

実践報告3 『たすけあいが原点「つながること・寄り添う事」』

布川佐登美 氏（NPO 法人ケアラーネットみちくさ 理事長）

コメンテーター：井上 義臣 氏

コーディネーター：吉原 明香



3)「市民まちづくり応援ファンド」による助成

前年度の寄付金より拠出した「市民まちづくり応援ファンド」のうち、用途を指定されていないものを、「ひばり会（下和泉住宅自治会）」に助成しました。

【3】認知症ケア実務者向け研修

「認知症ケアの基本 ～日々のもやもや、これで解決！～」(全3回講座)

日時：2017年10月6日、11月6日、12月6日 10:00～17:00

第1回 基調講演「認知症の方本人に寄り添うケア」 長谷川 洋 氏

(長谷川診療所院長、精神科医)

○認知症ケアの歴史とこれからの認知症ケアを考える

第2回 ○本人の視点を磨く

○認知症の方本人に寄り添うケア実践編

～ひもときシートの活用方法 その1～

第3回 ○認知症の方本人に寄り添うケア実践編

～ひもときシートの活用方法 その2～

○認知症ケアの基本+α～認知症ケアに必要な知識・技能

＜メイン講師＞

・ 井上 義臣 氏 高齢者グループホーム横浜ゆうゆう

＜スーパーバイザー＞

・ 富田 克利 氏 ゆい藤ヶ丘 居宅介護支援

・ 長本 節子 氏 高齢者グループホーム横浜はつらつ

・ 村井 キヌエ 氏 横浜市総合保健医療センター

・ 村上 美如 氏 通所介護施設グロリアステイ



■ 第6期 泉区まちづくりみらい塾（泉区まちづくりみらい塾および横浜市泉区役所との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度泉区まちづくり未来塾 報告書」をご覧ください。

■ 第6期 西区地域づくり大学校（横浜市西区役所との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度西区市民活動支援センター 報告書」をご覧ください。

■ 第3期 神奈川区地域づくり大学校（横浜市神奈川区役所等との協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度神奈川区地域づくり大学校 報告書」をご覧ください。

■ シニア★スター養成講座（横浜市都筑区役所・地域ケアプラザとの協働事業）

別紙「2017（平成 29）年度 都筑区シニアスター養成講座 報告書」をご覧ください。

■ ヨコハマ市民まち普請事業

（横浜市都市整備局地域まちづくり課、横浜市指定 NPO 法人アクションポート横浜との協働事業）

三者協働によるヨコハマ市民まち普請事業の事務局運営を行いました。

成果と課題

● 成果（経緯）

横浜市指定 NPO 法人アクションポート横浜、横浜市都市整備局地域まちづくり課との三者による協働運営は9年目に入りました。とくに、事業の周知では、横浜市市民活動支援センターを管理運営している立場から、区の市民活動支援センター職員が集う研修の場で、事業紹介の機会をつくりました。

● 課題

まち普請事業では、2015 年度から企業マッチングの取り組みが始まり、企業との連携を通じて成果を上げる整備箇所も見られるなど、市内におけるまちづくりの実践が積みあがってきました。今後も、市民主体のまちづくりにつながる制度として、多くの市民がチャレンジできるよう、事業の周知方法や、コンテストの実施方法等について検討を続けていくことが課題です。

事業の概要と実施したこと

「私たちのまちを、私たちがつくる！」そんな思いをカタチにするための地域協働のきっかけづくりとなる事業です。身近なまちのハード整備に関する提案を募集し、2回の公開コンテストで選考された提案に対して最高 500 万円の整備助成金が交付されます。

今年度、当法人では、主に、整備箇所現地視察、コンテストの運営補助（記録、設営・備品）および広報を行いました。

◆ 公開 1 次コンテスト

【日時】2017 年 7 月 8 日（土） 【会場】横浜みなとみらい 21 プレゼンテーションルーム
12 グループからの提案のうち、6 グループが 2 次コンテスト対象提案として選考されました。

◆ 平成 28 年度 整備箇所視察ツアー

【日時】2017 年 8 月 23 日（水）

まち普請事業 28 年度整備箇所の視察ツアーを企画・運営しました。

提案名	グループ名
【都筑区】 「東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置」	つづきっず、はい！
【泉区】 「湧水を住民のいこいの場に！子どもたちに自然体験を！」	下和泉湧水を守る会
【金沢区】 「住民同士の輝き『人材マップ』を中心にした拠点づくり」	六浦東・まち交流ステーション委員会

◆ 公開２次コンテスト

【日時】2018年1月27日（土） 【会場】横浜市市民活動支援センター4階

公開コンテストの結果、以下の3提案が整備助成対象提案として決定しました。

提案名	グループ名
【青葉区】 太陽公園ローズサロン	荏子田太陽公園愛護会
【青葉区】 「百段階」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備	美しが丘アセス委員会 遊歩道ワーキンググループ
【泉区】 中田のえんがわ「宮ノ前テラス」多世代交流スペース	宮ノマエストロ

※ コンテスト業務のほか、まち普請事業部会や関連イベント（活動懇談会／企業マッチング会、H27整備成果報告会／まちづくりびと全員集合）に参加しました。

◆ まち普請事業に関する広報の取組み

制度やコンテストをはじめとする関連事業の広報として、以下の取組みを行いました。

○横浜市市民活動支援センターにおける事業を通じた広報

- ・ メールマガジン「アニマートピコ」：各イベント・応募案内
- ・ つながりのまちづくりフォーラム：フォーラムでのイベントの周知、情報コーナーの設置

○法人事業を通じた広報

- ・ 西区地域づくり大学校：まち普請事業の制度紹介
- ・ 都筑区シニア★スター養成講座：まち普請事業の制度紹介
- ・ 神奈川区地域づくり大学校：まち普請事業の制度紹介
- ・ 泉区まちづくりみらい塾：まち普請事業の制度紹介
- ・ 認知症カフェフォーラム：まち普請事業の制度紹介

■ NPO 法人横浜市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の 事業事務局代行

特定非営利活動法人横浜市小規模多機能居宅介護事業者連絡会は、横浜市内の小規模多機能居宅介護事業者の連絡連携ならびにその職員の資質の向上に資する事業をおこなっています。しかし、法人のメンバーが皆、各々の事業所に属しているため、NPO法人の事務局としての業務は、活動時間の捻出や作業場所の確保などの点から、スムーズな運営がしにくい状況にあります。昨年に引き続き、事業運営事務局の一部を受託しました。

成果と課題

● 成果

連絡会のホームページをアップしたり、セミナーの申込み受付の仕組みを整えるなど、連絡会の役員と連携して運営することができました。

● 課題

連絡会の正会員の状況確認や次年度に向けての更新がいまだ不十分です。理事長他メンバーと連携をとり、事業運営の情報共有、運営方法の検討、正会員の管理も担うことを検討します。

事業の概要と実施したこと

○ 連絡会

年 5 回の開催に関し、会場予約、参加申込受付、参加者名簿作成などを実施しました。

○ 横浜市委託事業のセミナー

年 5 回の開催に関し、セミナー案内チラシの作成、参加申込受付、参加者名簿作成、セミナー使用資料の印刷等準備などを実施しました。

○ ホームページ更新作業

会員施設の情報、連絡会やセミナーの開催日程・内容等について、ホームページを都度更新。更新に当たっては、役員と内容確認しながら進めました。

【市民の目を活かした評価事業】

■ 第三者評価事業

●福祉サービス第三者評価事業・指定管理者第三者評価事業

●障がい者保養施設宿泊モニタリング

成果と課題

● 成果（経緯）

今年度は、福祉サービスでは保育園を 28 件、指定管理では 2 件実施しました。事務局体制の充実と、調査員の質の高い調査・報告により、当法人に評価実施を感謝するコメントを多くいただきました。

● 課題

横浜市では、障がい分野や高齢分野での実施がいまだ少ない状況にある中、残念ながら、今年度は評価依頼がありませんでした。障がい施設や高齢施設こそ、サービスの質の向上のため、第三者評価は有効かつ必要と考え、健康福祉局の福祉サービス第三者評価推進委員会において委員として提言を行い、年度末の委員会にて、検討に入る旨の説明があり、一定の効果をあげました。引き続き、働きかけていきます。

事業の概要と実施したこと

<福祉サービス第三者評価事業>

福祉サービスの質の向上のために、横浜市の評価基準を使用して福祉施設の評価を行いました。評価の結果は公表するとともに、事業者（施設）との対話の中から、次のステップへの「気づき」が生まれることを目指しました。

【評価完了案件（順不同）】

分野	施設名	運営主体
保育	マイ・ハート綱島東保育園	株マイ・ハート
	洋光台中央福澤保育センター	社会福祉法人久遠会
	第二福澤保育センター	
	ポピンズナーサリー鶴見	株ポピンズ
	ポピンズナーサリー片倉町	
	ポピンズナーサリー小机	
	ベネッセ本郷台保育園	株ベネッセスタイルケア
	新桜ヶ丘保育園	社会福祉法人相愛会
	丸山台保育園	社会福祉法人白百合会
	白百合乳児保育園	
	上末吉保育園	

鳩の森愛の詩保育園	社会福祉法人はとの会
鳩の森愛の詩瀬谷保育園	
ふたば保育園	社会福祉法人和泉福祉会
合歓の木保育園	社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団
明神台保育園	
みどり乳児園	特定非営利活動法人みどり乳児園
菊名愛児園	宗教法人日本基督教団横浜菊名教会
港南台つばさ保育園	特定非営利活動法人きずな会
キッズポケット	特定非営利活動法人キッズポケット
ナーサリー横浜ポートサイド	社会福祉法人和泉福祉会
にじいろ保育園コスモス	ライクアカデミー(株)
にじいろ保育園ポピー	
にじいろ保育園信濃町	
にじいろ保育園いずみ中央	
にじいろ保育園釜利谷	
にじいろ保育園本鵜沼	
にじいろ保育園鵜沼神明	

<指定管理者第三者評価事業>

施設名	運営主体
鶴ヶ峰コミュニティハウス	一般社団法人 あさひ区民利用施設協会
横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ	社会福祉法人横浜市福祉サービス協会

<障がい者保養施設宿泊モニタリング>

障がいのある方にとって、生活の質（ＱＯＬ）の向上を図る上で、「障がいのある方とその家族が安心してご利用いただけるくつろぎの空間」（パンフレット・HP より）である当該施設の存在は、地域社会の貴重な社会資源です。当該施設には、宿泊施設としての機能のほか、研修やレクリエーションなどを行う設備もあり、障がい者及び障がい教育・障がい福祉等の関係機関への周知が行き届き活用への意識が広がることは、施設の社会資源としての価値がより向上すると思われます。

昨年に引き続き、横浜移動サービス協議会にモニタリング調査を依頼し、障害ある方が、お一人で、またはヘルパー同行で３回に分けて実施されました。また昨年度に引き続き、当事者の方による職員研修も実施しました。職員の方一人ひとりが施設・自身の課題に気づき、当事者の方と直接コミュニケーションすることの大切さを実感した研修となりました。

【クロスセクター事業】

■ 地域づくり大学校本校の企画検討会

Y-college（地域づくり大学校）のカリキュラム検討するため、企画会を実施しました。

● 成果（経緯）

市内で活動する NPO、企業、行政職員の皆様にご参加いただき、有意義な意見交換の場、また企画のアイデアをいただく事ができました。

- ★「横浜のソーシャルの核となる人材」を養成する
- ★「目的」「目標」を見つめ直す機会→新たな問いを持つ
- ★「進化」「深化」する場（実践の場）
- ★「自立する自分」→「支え合う組織」→「社会変革」
- ★「協働の土台を作る」

● 課題

企画会にていただいた様々なご意見を集約し、今年度中に開催すべくカリキュラムを再検討する必要があります。

● 実施したこと

様々なセクターのリーダーに企画会に参加していただき、Y-college（地域づくり大学校）のカリキュラム企画会を3回に分けて実施しました。

■日時：2017年9月8日（金）、11日（月）、12日（火）

■場所：市民セクターよこはま事務所

【企画会メンバー】

梅原昭子さん（NPO 法人森ノオト 理事/事務局長/ライター）
男澤 誠さん（スリーハイ代表取締役社長）
江森克治さん（協進印刷 代表取締役社長）
大川哲郎さん（大川印刷代表取締役社長）
大川陽子さん（電通パブリックリレーションズ）
岡田雅子さん（ロアジスジャパン 代表取締役社長）
蟹江千里さん（横浜もの・まち・ひとづくり プロデューサー）
河原勇輝さん（太陽住建 代表取締役社長）
森祐美子さん（NPO 法人こまちぶらす 理事長）
相馬英樹さん（泉区白百合台自治会青年団 Fellows 代表）
永岡鉄平さん（NPO 法人フェアスタートサポート 理事長）
長田英史さん（NPO法人れんげ舎 代表理事）



企画会の様子



カリキュラムに対するご意見をいただき、全員でディスカッション



■ スタディツアー（企業・NPO 編） ※神奈川県 NPO 協働推進課との協働事業

神奈川県が実施しているパートナーシップ支援事業の一環として実施された事業。今回は、2か所の現場訪問、4つの実践報告を通じて、企業や NPO、施設、ボランティア団体等との連携・協働によって行われている、研修や地域・社会活動、就労マッチングの取組みを学びました。

成果と課題

● 成果（経緯）

ツアー全体を通じて、多様な主体が連携・協働することで、人と人、人と社会とのつながりが生まれ、それによって様々な価値や成果が見られていることが分かり、今後に向けたヒントを得ることができました。

現場から得られた気づき

- 「ボランティア体験」「若者の育ち」や「まちの美化」という切り口で、企業・福祉施設・支援機関・NPO 等、多様な主体がともに取り組むことで生まれる「人と人の素の出会い」が、互いの深い学びの機会や次の展開につながることがわかりました。
- 地場企業の地域活動と本業との好循環が生まれている事例は、「信頼」を軸においた「人が活きる会社と社会」のモデルとも感じられ、新しい価値や成果を生み出している ことが見えてきました。
- 「人」としての豊かな生活や暮らしをつくっていくには、「地域」との関わりが重要であり、個人、企業や NPO、地域団体などが、ささやかでも「ともに何かに取り組む」ことで、顔の見える関係が育ち、支え合う気持ちが引き出され、地域にも愛着が湧き、つながりがさらに増えていくことがわかりました。

※詳細な実施内容や、参加者の声は、神奈川県ホームページからご覧いただけます。

検 索

神奈川県 パートナーシップ支援事業

● 課題

NPO、企業、大学、地縁組織、行政など、様々な主体が、社会を構成する一員として、互いのセクターの垣根にとらわれず地域・社会課題の解決に取り組む事例が益々広がっています。今後は、主体の括りにとらわれずに、協働の実践やマインドを学ぶ機会として企画していくことで、クロスセクターによる実践の拡大に向けた学びになることが期待されます。

事業の概要と実施したこと

スタディツアー（企業・NPO 編）

【日時】

平成 30 年（2018 年）1 月 25 日（木） 13 : 00～17:30

【参加者】

25 名（NPO 等 20 名、企業 2 名、大学 1 名、行政 2 名）

【テーマ】

社会の中で人が会う・学ぶ・生きる～企業と NPO がつながることで生まれる価値～

【訪問先】

- ・MUFG グローバルラーニングセンター
- ・井土ヶ谷アーバンデザインセンター「おひさま広場」

【実践報告・情報提供】

- ・株式会社三菱 UFJ 銀行
「福祉施設・NPO との連携による「コーポレート・シチズンシップ・プロジェクト」
- ・東京ボランティア・市民活動センター（発表：主任 河村 暁子 さん）
「東京都内の企業・NPO の連携・協働による取組み紹介」
- ・株式会社太陽住建（発表：代表取締役 河原 勇輝 さん）
「つながりが新しいことを生む」企業が運営する地域の交流拠点の取組み」
- ・NPO 法人フェアスタートサポート（発表：代表 永岡 鉄平 さん）
「企業との連携による就労支援の取組み」



資料編

(1) 会員数の推移

	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08
合計	136	141	125	176	145	184	195	216	204	192

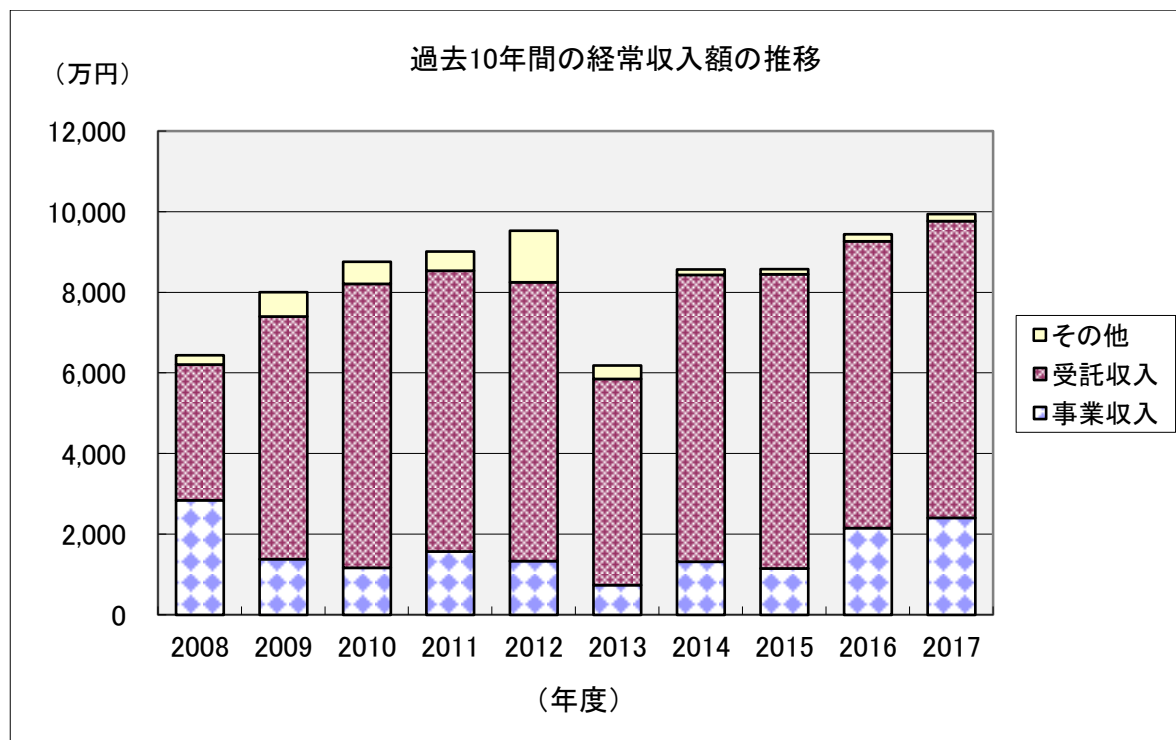
	09	10	11	12	13	14	15	16	17
合計	186	196	193	150	147	146	138	134	137

※ 1998年度は9月時点の数値、それ以外は各年度末（3月末）の数値です。

※ 正会員・準会員・賛助会員を合計した数値です。

※ 数年以上会費納入のない会員について、2012年度に整理作業を実施しました。

(2) 収入額の推移と内訳



※ 受託収入 = 行政からの委託事業（行政との協働事業）

※ その他 = 会費収入・助成金収入・寄付金収入など

※ 借入金収入や前期繰越金は含めていない

※ 2013年度、第2事業部が独立

(3) 市民セクターよこはま 沿革

1998.7	「市民セクター構築のための研究会」発足
1999.9	市民セクターよこはま 設立 (9/28) 横浜ワールドポーターズに店舗兼事務所「こらぼ」開設
1999.12	横浜市への要望書提出「新しい公共の創造へ向けて」
2000.1	配食サービス連絡会発足
2000.9	横浜移動サービス協議会発足（移動プロジェクトより独立）
2001.7	デイサービス・サロン連絡会、事業型 NPO 連絡会発足
2002.2	横浜ワールドポーターズに「NPO スクエア」開設 同所に事務所移転
2002.7	NPO マネジメント支援プロジェクト発足（～2005.9）
2002.10	横浜市市民活動共同オフィスの管理運営を受託（～2009.3） 協働のありかた研究会参画
2003.4	NPO 法人「市民セクターよこはま」設立・登記（認証 4/1） 精神保健連絡会発足
2003.5	設立総会、NPO 法人設立記念パーティ
2004.5	理事長松本和子退任、服部一弘就任
2004.7	横浜会議で研究テーマを提案、採択される 『「暮らしを支える生活術マトリクスモデル」作成と市民力を活かした新システムの研究』
2004.8	認知症ケアマネジメント推進事業開始 訪問介護員養成研修 1 級課程 開始（～2005.11）
2004.11	事務局内に評価事業部設置、福祉サービス第三者評価事業開始
2005.6	地域福祉コーディネーター養成研修開始
2005.8	NPO 等に対する相談・アドバイス事業開始（～2008.3）
2006.5	「介護サービス情報の公表」に係わる調査事業開始（～2009.3）
2006.12	理事長服部一弘退任、松本和子就任
2007.1	横浜市指定管理者第三者評価事業開始
2007.10	コミュニティビジネス支援事業開始
2007.11	横浜市中区住吉町（関内）に事務所移転 地縁型組織とテーマ型組織の協働モデル事業開始
2008.5	理事長松本和子退任、中野しずよ就任
2008.7	区役所窓口サービス向上支援事業開始（～2010.3）
2009.4	組織改編（事業ユニット制の導入）
2009.5	定額給付金の代理受領および横浜市への寄附手続き開始（～2009.11）
2009.7	横浜市市民活動支援センター運営開始
2012.7	認定特定非営利活動法人（認定 N P O 法人）として国税庁より認定
2013.4	横浜市中区太田町（馬車道）に事務所移転
2014.4	横浜市市民活動支援センター運営（2 期目） にしく市民活動支援センター運営開始
2016.10	神奈川県指定特定非営利活動法人（県指定 NPO 法人）指定
2017.4	横浜市認定特定非営利活動法人（横浜市認定 NPO 法人）認定

(4) 2017 年度の役員・事務局スタッフ

● 役員（理事・監事）

理事長	中野 しずよ
副理事長	竹谷 康生、松本 道雄
理事	井上 義臣、加世田 恵美子、齋藤 保、田尻 慎太郎 山野上 啓子、吉原 明香、岡部 祥司（2016.6～2017.5）
監事	西尾 敦史、大塚 宏

● 事務局スタッフ

常勤・非常勤 アルバイト	吉原 明香（事務局長）
	横浜市市民活動支援センター配属 関尾 潤、薄井 智洋、山田 素子、樋山 麻子（～2017.9）、小川彩子（2017.8～）、大河原 正人、奥井 利幸、神田 廣志、田中 田人、撞井 静雄、原田 姫子、村田 育男、落合 貴美恵、内田 智美、松原 優佳（～2017.5）
	西区市民活動支援センター配属 加世田 恵美子、宮澤 勝子、今村 理恵子、松田 香（～2017.8）、藤崎 さゆり（2018.4～）、北川 洋（2018.4～）
	法人事務所配属 石川 亜紀子、徳増 友紀、
ボランティア スタッフ	勝田 泰輔、山戸 一弥、平尾 隆郎（2018.2～）